



53 Fusion Workplaces

融合するワークプレイス

Spring 2009

オフィスを現場にする、現場をオフィスにする
ビジネスのプロセスには、多くの部署や担当者が関わる。そのメンバーの働く場所は広範囲にわたり、まったく別の現場で働いていることも多い。それらの現場をつなぐ方法があれば、チームはもっと強くなれるはずだ。身近なオフィスだけでなく、遠くの現場とも交流できるようなワークプレイスが求められている。



52 Workplaces as Catalysts

カタリスト・ワークプレイス

Autumn 2008

触媒環境を創る
知識創造とイノベーション。多くの組織がその効果的な方策を模索している課題である。その鍵を握るのは、知識を持ち創造する個人、そしてその集団の相互作用だろう。だから、企業はより優秀な人材を集め、彼らの活動を活性化しようとする。そんな課題に対して、オフィスはどのような役割を果たせるだろうか。



51 Next Workspace

ネクスト・ワークスケーブ

Spring 2008

- ・人材戦略の処方箋：ワークプレイスは人材確保に貢献するか
- ・技術で広がるワークスペース：ヴァーチャルスペースの潜在力を探る
- ・持続可能なオフィスビルディング：フレキシブル、エコロジカル、ヘルシー
- ・ワークプレイスが伝えるメッセージ：ブランディングツールとしてのオフィス



50 Evolving Workplaces

進化を続けるワークプレイス

Spring 2007

ワークプレイスの進化と変遷
90年代初期に始まった情報技術の進化とともに、我々は多様な革新事例を見てきた。ノマディックなワークスタイルとオルタナティブオフィスの登場。ビジネスモデルの変革を支えるインフラとしてのワークプレイスへの移行。その過程でコストダウンからバリューアップへと変化してきたオフィスの役割。今、これまで見てきた多様な事例からその変遷を振り返り、これからの行方を考えてみよう。



49 Inspiring Workplaces

触発するワークプレイス

Autumn 2006

刺激あるいは触媒としての空間
ノマディックなワークスタイルがひろがり、組織の変化があたりまえになると、人々は特定の場所や空間に長く留まらなくなる。そうすると、人々と空間との関わりは少し希薄になるかもしれない。そこで、そうした変化を前提に、足りないものを補う、あるいは、その特性を活かす。そんな戦略やデザインについて考え始めてもいい頃だろう。



48 Connective Workspaces

つながるワークスペース

Spring 2006

繋ぐ仕組みを構築する
今日、とどまることのない情報通信技術の進化と共に、働く場所の選択肢はいつそう拡大しつつある。今や、ネットワークさえ繋がっていれば、いつでもどこでも仕事ができる……。本当にそうだろうか。働く人々への視点を、個人レベルから組織レベルへと移してみると、そこにはまだ解決すべき課題が残っていることに気付かされる。人々を、そして空間を、効果的に繋ぐためのオフィス変革は、そのためのひとつの方策である。

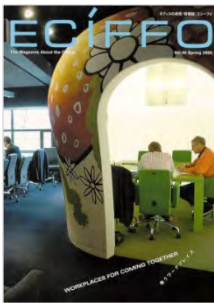


47 The Next Step in Office Innovation

オフィス変革のネクストステップ

Autumn 2005

ワークプレイス変革の方向性
ビジネス環境の変化とテクノロジーの進化に後押しされて、組織やワークスタイルがあらたな変化のフェイズに向かうとき、ワークプレイスにもまた変革が求められる。その行方を探りながら、まずは最初の一步を考えることから始めよう。



46 Workplaces for Coming Together

集うワークプレイス

Spring 2005

出会いと交流を支える場
情報通信技術の進化、ワークライフの多様化、そして、知識社会への移行……。錯綜するさまざまな要因によって、働く人々の分散化と移動性が高まる一方で、直接会うことの重要性も高まっているようだ。離れることと集まることのバランスはどう計画すればいいのか。それらの望ましい関係を支える場所や仕組みのデザインはどうあるべきか。これらを考えることは、次世代のナレッジコミュニティの計画に有用なヒントを与えてくれるだろう。



45 Workplace Culture

ワークプレイス・カルチャー

Autumn 2004

組織文化とワークプレイス
ビジネスの理念や目標、そして長期的な戦略。それを遂行する組織のあり方や変化の方向性。それら両面から組織文化を考慮し、それと調和するようなオフィスのデザインとはどのようなものだろうか。ビジネスが組織と空間を創り、その空間がビジネスを支える組織文化を育てる。そんなオフィスのあり方を探ってみよう。



44 Workplace for Innovation

革新のためのワークプレイス

Spring 2004

革新を支える行動と空間
ビジネスを支えるテクノロジーから、働く人々を取り巻く社会構造まで、ビジネス環境は大きな変革の中にある。そうした時代にあって、組織の創造的活動を支援し、それらを革新的な成果につなげていくのは、まさに組織を構成する人々自身の役割だろう。一方、そうした活動をより積極的に支援することにおいては、ワークプレイスも重要な役割を担うことができるはずだ。革新を支援するワークプレイスは、どのようにして成り立つのだろうか。



43 Supporting Creative Culture

クリエイティブカルチャーを支えるオフィス

Autumn 2003

組織の創造性とオフィス空間
自分たちはどのような状況にあるのか。これからどこへ向かうかとしていのか。そのために何を考え、どのように行動すればいいのか。そうした問いに答え、組織の文化とビジネスの行方を認識した上で、より望ましい行動を触発し価値観の形成を支援できる空間の中に自らを置くこと。組織の創造性を求め、ビジネスの成功につなげようとするなら、オフィスづくりの第一歩はそこから始まるのではないだろうか。



42 Reorganizing Workplaces

再編されるワークプレイス

Spring 2003

再構築されるワークプレイス戦略
情報技術と市場が目まぐるしく変化する中、多くの企業組織が変革に取り組んでいる。そこで起こる変化は、企業のビジネスシステムをも転換させるレベルにまで至ることも少なくない。一方で、そうした組織の経営資源の重要な部分を担うワークプレイスの選択肢は、さらなる多様化が進んでいる。今や、企業組織の外に拡大する新たな選択肢も視野におきながら、未来の変化に向けてワークプレイス戦略の再構築にとりかかるときが来ている。



41 The City as The Workplace

都市化するワークプレイス

Autumn 2002

都市に浸透するワークプレイス
人々のコミュニケーションのスタイルやビジネスの仕組みが情報通信技術によって多様化しつつある今日、デジタルネットワークへのアクセスポイントはオフィスを飛び出して街の中へと拡大を続けている。人々の活動を支えるさまざまな空間やサービスが拡大し分散していくとき、そこにはどのような姿のワークプレイスが現れるだろうか。



40 Team Place, Team Process

チームプレイス、チームプロセス

Spring 2002

チームを支えるワークプレイス
ビジネス環境の変化と情報技術の進化にともなって、企業組織の枠組みは大きく変化しつつある。その結果生まれる異能異質の人々の集団の創造的な潜在力を高めるには、どのようなワークプレイスがふさわしいのだろうか。チームを構築し、そのポテンシャルを引き出し、高い成果へと導くようなプロセスとはどのようなものだろうか。そして、それらはどうすれば創り出せるのだろうか。今一度、チームについて考えてみよう。



39 E Workplace

E ワークプレイス

Autumn 2001

デジタルエコミーを支えるワークプレイス
ITというキーワードがビジネスシーンで日常的に使われるようになった今日まで、我々はワークプレイスにおいて様々な変化を体験してきた。新たなハードウェアを手にし、様々なソフトウェアを使い分け、働く場所の選択肢も拡大してきた。そして、テクノロジーの影響がさらに広範な領域にまで及ぶにつれて、ビジネスの仕組みまでが変わり始めた。そこではワークプレイスの位置付けも新たな次元へと移行しつつあるように見える。そのデザインにも新たな枠組みへの対応が求められるに違いない。



38 What Comes Tomorrow

次世代オフィスの展望

Spring 2001

変革途上のワークプレイス
この10年間、ビジネスとテクノロジーの変革にともなってワークプレイスもさまざまな新しい姿を見せてきた。もともと、ビジネスもテクノロジーもまだ目的地に辿り着いたようには見えない。ワークプレイスも然りである。新たな枠組みが現実のものとなりつつある今、われわれはさまざまな視点からそれらを検証しその行方を展望すべきだろう。



Autumn 2000

37 Workplaces as Media メディアとしてのワークプレイス

ワークプレイスが発信するメッセージ
産業構造の転換とともに増加する知識労働者、さまざまな条件の下に選択肢が拡大する雇用形態、そして、情報技術の進展とともに分散化する人々。一方で組織 自体もダイナミックにビジネスシステムを変容させていく。場所と人々との関係が多様化し、組織が求める価値も変わりつつある今、働く人々に組織の文化や 価値観をどう伝え、顧客やビジネスパートナーにどんなイメージを送るのか。



Spring 2000

36 Agile Workplace アジル・ワークプレイス

ライト、スピーディ、フレキシブル
ビジネスのあらゆる局面に情報技術が関わり、活動と競争がグローバルになる。そして意志決定と行動には、デジタル世界の速度標準が適用される。目まぐるしく変化するビジネス環境の下、組織の活動を支えるワークプレイスはどうか対応していけるだろう？ 短期間での空間の調達構築、絶え間ない変更と更新、そして臨機応変に使い分けられるサービス。刻々と変化するビジネス戦略と組織のニーズに対して臨機応変に対応できるような「俊敏なワークプレイス」のあり方を探る。



Autumn 1999

35 Workplace for Change 変革のためのワークプレイス

企業変革とワークプレイス
技術と市場が目まぐるしく変化し、競争が激化する今、組織は生き残るための変革に取り組んでいる。ビジネスシステムの再編から組織文化の改革まで、直面している課題は多様だが、その方策がファシリティと影響を与え合うケースは少なくない。知識社会への移行が進むにつれて、企業組織に属する人材と活動拠点であるワークプレイスは経営資源としての重要度が更に高まる。そして、変革を支援するワークプレイスのあり方があらためて問われることになる。



Spring 1999

34 Facilities as Business Tools ビジネスツールとしてのファシリティ

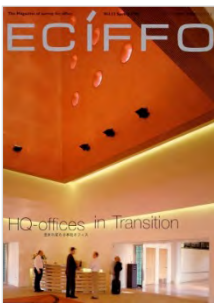
変化するオフィスの役割
変化の速度と行方の不確実性が増すなかで、ファシリティはどうか対応すれば良いのだろうか？ それらを実際に運用し評価するための効果的な仕組みとはどのようなものだろうか？ こうした問いに答えるためのヒントを探すべく、いくつかの組織のファシリティとその戦略に焦点を当ててみた。異なる業種、異なる戦略、そして異なるプロセスの中から、ビジネスツールとしてのファシリティの在り方を探る。



Autumn 1999

33 Virtual & Real ヴァーチャル & リアル

情報化による行動と環境への影響
多様な情報の処理やコミュニケーションからシミュレーションまで、さまざまなオフィスワークの重要なツールとして定着してきた情報技術と道具。パーソナル・コンピューターや電子メールがもはや不可欠なツールとなった今日、それらはわれわれのワークスタイルやオフィス環境にどう溶け込んでいるのだろうか。ヴァーチャルな道具やスペースとリアルなそれらが互いにどう影響しあっているかを探る。



Spring 1998

32 HQ-offices in Transition 生まれ変わる本社オフィス

ヘッドオフィスの行方
ここ数年間、本誌で取り上げた多くの事例が、ファシリティの小型分散化や、人々のワークスタイルを非定住化へと向かわせる様子がうかがえた。では、これまでの中心はどうなるのだろうか。本号では、中心のオフィスを代表するものとしての本社、もしくはそれに相当するオフィスの新しい事例の検証を通して、その動向を多様な視点から探る。



Autumn 1997

31 Change and Adaptation 進化するワークプレイス

ワークプレイスの変化と適応
新しいコンセプトによる革新的なフレキシブル・オフィス戦略が登場してから数年を経て、その後これらの仕組みはどう機能しているのだろうか。あるいは、どのような変化の影響を受けながら今日に至っているのだろうか。本号では、以前に訪問したオフィスを再び訪問し、その変化の跡を追うことから始め、それらを参照しながら、さらに進化した事例にも目を向け、進化の方向を探る。



Spring 1997

30 Workplace On Demand ワークプレイス・オン・ディマンド

オン・ディマンド・サービスによるワークプレイス
ながらく「オフィス」と呼ばれてきた場所で見られた活動が、はるかに広範な場所で営まれるようになってきた。企業組織の流動化と情報技術の進展に伴って、個々のファシリティのニーズも目まぐるしく変化する。もはや固定的なオフィス戦略だけでは通用しない。そこで、伝統的なオフィスを補完し、必要なものを、必要な場所で、必要な時だけ供給できる仕組みの可能性を探る。



Autumn 1996

29 Flex-work, Flex-place フレックスワーク、フレックスプレイス

分散するワークプレイス
情報通信テクノロジーの進歩が働く場所と働き方に柔軟性をもたらした。さまざまな場所と時間帯での勤務へと多様化が進み、小規模オフィスや自宅(SOHO)でも仕事ができる環境が整いつつある。そんな状況を米国の事例に見る。



Spring 1996

28 Offices as Tools, Tools as Offices ツールとしてのオフィス、オフィスとしてのツール

仕事、場所、道具
マネジメントの変化と情報技術の進化と共に、伝統的なオフィスの概念が崩れ始めた。さまざまなオフィスが道具のように使い分けられる一方で、ひとつの道具でもオフィスの役割を果たす。そんな時代のオフィスと道具の関係を探る。



Autumn 1995

27 Re-officing 再生するオフィス

オフィスのライフサイクルを考える
新しいオフィスを創る前に、今あるものを未来に向けて再生する。環境保全のための保存・改修から、刻々と変化するビジネスと情報環境に対応する更新と柔軟性まで、さまざまな視点からオフィス環境の再生について考える。



Spring 1995

26 Fluid Office 流体オフィス

次世代オフィスの行方を探る
新たな産業革命とも称される情報技術革新が進む一方で、ビジネスのあり方も問い直される。そのとき、次世代のオフィスはどう変わっていくのか？ 流動化する組織とワークスタイルを支援するオフィス環境の行方を探る。



Autumn 1994

25 Team Architecture チーム・アーキテクチャー

チームのためのオフィス空間
チームを組み立てること、チームの形や構造、そしてチームのための空間。「チーム・アーキテクチャー」とはそんな意味のキーワードである。階層を超えて多様な職能やスキルをつなぐ触媒のようなオフィス、そんな空間のあり方を探る。



Spring 1994

24 Ameritech Center 伝達するオフィス



Winter 1992

19 Team Disney テーマオフィス



Winter 1993

23 National Audubon Society グリーンオフィス



Autumn 1992

18 SZW 回遊するオフィス



Autumn 1993

22 B. Braun Melsungen 増殖するオフィス



Summer 1992

17 Vitru Campus 個性を象徴するオフィス



Summer 1993

21 Renault 疾走するオフィス



Spring 1992

16 Maria Rosa Soler 台頭するオフィス



Spring 1993

20 Northern Telecom 交信するオフィス



Winter 1991

15 IBM-UK, Stansted 出帆するオフィス